

兵庫県保険医協会尼崎支部第 45 回総会 記念講演会

アスベスト被害を考える

○日 時 **7 月 30 日 (土)** **参加費無料**
○会 場 **尼崎商工会議所 701 会議室**

□記念講演 15 時～ 17 時 30 分

講演①

講師 灘区・大西内科クリニック

大西 一男 先生

講演②

講師 神戸新聞東京支社編集部長・論説委員

加藤 正文 氏

兵庫県保険医協会は、市内の開業医の 8 割以上が加入する医師・歯科医師の団体です。国民医療の向上を目指して日々活動しています。このたび、アスベストをテーマに市民公開講演会を企画いたしました。神戸市灘区でアスベスト相談にも対応されている大西内科クリニック院長の大西一男先生と、著書「死の棘 (とげ) ・アスベスト作家はなぜ死んだのか」で「科学ジャーナリスト賞」を受賞した神戸新聞東京支社編集部長の加藤正文氏にアスベストの実態についてお話いただきます。皆さまお誘いあわせのうえ、是非ご参加ください。



※お問い合わせは、尼崎支部担当事務局 (Tel 078-393-1805) 長澤・荒川・石本・湯浅まで

<お申し込み> FAX : 078-393-1802 (切り取らずに送信ください)

■記念講演 (15 : 00 ～ 17 : 30 701 会議室)

() 人参加 代表者ご氏名 ()

兵庫県保険医協会

尼崎支部ニュース

378 号

2016 年 6 月 25 日付

〒 660-0055 尼崎市稲葉元町 2 - 11 - 10 八木クリニック
兵庫県保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011

尼崎アスベスト裁判 (労災型) 控訴審

アスベスト曝露認めない

不当判決に怒り渦巻く



船越正信先生が「遺族はやりきれない気持ちだ。今後も私たちが支えていこう」と訴えた

尼崎市内のクボタ旧神崎工場にアスベスト原料を運搬していた男性と、溶接工として石綿エプロン・手袋などを使用して鉄工所に勤務していた男性が、肺がんで死亡したとして、遺族が労働者への安全配慮義務を怠ったクボタと、規制を怠った国を相手に謝罪と損害賠償を訴えていた尼崎アスベスト (労災型) 控訴審。この裁判の判決公判が 5 月 26 日に行われ、大阪高等裁判所は遺族の請求を棄却する不当判決を下した。

判決は、運搬していた男性についてはアスベスト搬出作業期間が 4 ～ 5 年と短く肺がん発症に影響する程度のアスベスト曝露ではないとし、 1 審でさえ認めていたアスベスト曝露を否定した。溶接工については石綿エプロン等の使用自体が明らかでなく曝露の事実が認められないとした。

本判決は、予見可能性について安全性に疑念を抱かせる程度の抽象的な危惧があれば足りるとする従来の判決例を否定するものである。 (2 面につづく)

(1 面のつづき)

また、被害者へのアスベスト曝露を認めた労災の認定と矛盾する判断である。さらに、遺族が示したアスベスト曝露の事実を無視し、何十年も遡ってアスベスト曝露を具体的・詳細に立証を被害者に求めるという極めて不当な判断である。

協会尼崎支部も参加する「アスベスト被害からいのちと健康を守る尼崎の会」(会長・船越正信尼崎医療生協理事長) は、判決後に報告集会を開催し、支援者 130 人がつめかけた。あいさつに立った船越先生は、「このような判決が続けば、全国のアスベスト被害者への救済の道を閉ざすものになりかねない。国と企業の責任を求める運動を強めよう」と怒りを込めて訴えた。

「ストップ患者負担増」署名にご協力ください

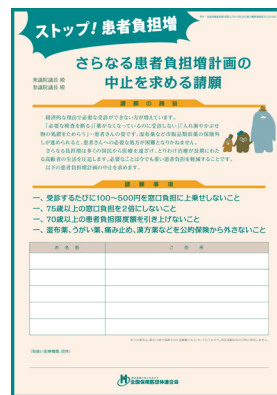
受付・待合室に署名用紙を設置し、患者さんに呼びかけてください

“保険で良い医療をひろげましょう”

協会では患者負担増計画を許さないために、「さらなる患者負担増計画の中止を求める請願」署名運動に取り組んでいます。

会員の先生方におかれましては、受付・待合室に署名用紙を設置のうえ、患者さんおよびそのご家族にも幅広く協力を呼びかけてください。まずはご自身・ご家族・職員の方々の署名を協会までご返送いただきますようお願いいたします。

用紙追加をご希望の場合は、協会事務局までご連絡ください。



支部会員の先生方へ

未入会のお知り合いの先生、 ご子弟に入会を是非おすすめください

保険医協会は県下で 7,200 人以上の医師・歯科医師が入会し、開業医が安心して診療に打ち込めるよう支えあう、開業医自身がつくる団体です。医学の進歩と医療技術の向上、変化する医療制度への対応、怪我や病気など万が一の時の備えなど、開業医の診療、経営、生活を全面的にサポートします。勤務医の先生も県下で約 1,600 人の先生方にご利用いただいております。

協会未入会のお知り合いの先生、ご子弟に是非、入会をおすすめください。



りよく
「サポート力」
いちばん身近に
いちばん親身に

職員接遇研修会 感想文紹介

笑顔や声かけで “感じのよい” 接遇を

支部では 6 月 11 日に、マネージメント・コンサルタントの松田幸子先生をお迎えし、「“感じのよい” 患者接遇の基本～クレーム対応も含めて～」をテーマに職員接遇研修会を開催。新人から勤続 20 年以上のベテランまで 41 人が参加した。

松田先生は、「マナーはホスピタリティを形にしたもの」と説明。表情（笑顔）や身だしなみ、挨拶・返事等で、ホスピタリティを表現することが大切だと訴えた。また、具体例を挙げながらクレームへの対応方法を紹介した。以下、参加者の感想を一部紹介する。

- 先生のお話はとても表情豊かで分かりやすかったです。私も先生を見習いたいと思います。
- 表情、声色、態度を駆使してタイミングが大事ということが参考になった。サンドイッチ法、Yes,But 法は初めて聞いたので今後の仕事に役立つと思う。
- チェンジオブペースなど、話が長い患者様の対応についてのケースがとても参考になりました。



ロールプレイングを交えながら楽しく学んだ

- 待ち時間が長い病院なので、クレーム対応のところが参考になりました。
- 5 年ぶりに参加させて頂きました。自分では出来ていると思いながらも出来ていないのではと初心に戻り、改めて参考になる点が多くありました。
- 出来ているつもりでも出来ていないことがたくさんあると感じました。まずは日頃から笑顔でいることを心掛けようと思います。
- 表現力を磨く努力をしようと思いました。自分を振り返ってみて普通の表情だと思っていましたが、もしかしたら口角が下がっていたかもしれません。マイナスイメージにならないように意識していこうと思います。
- 頭で分かっているても実行できないことがあると体で体験でき、大変大きな気づきになりました。
- 人に寄り添うことがどんな時でも大切であることを再確認できました。
- 接遇とは奥が深いなと感じました。相手、その場の状況、同じ場面が一度としかない中で最善の対応をしなければならない難しさがとても分かりました。